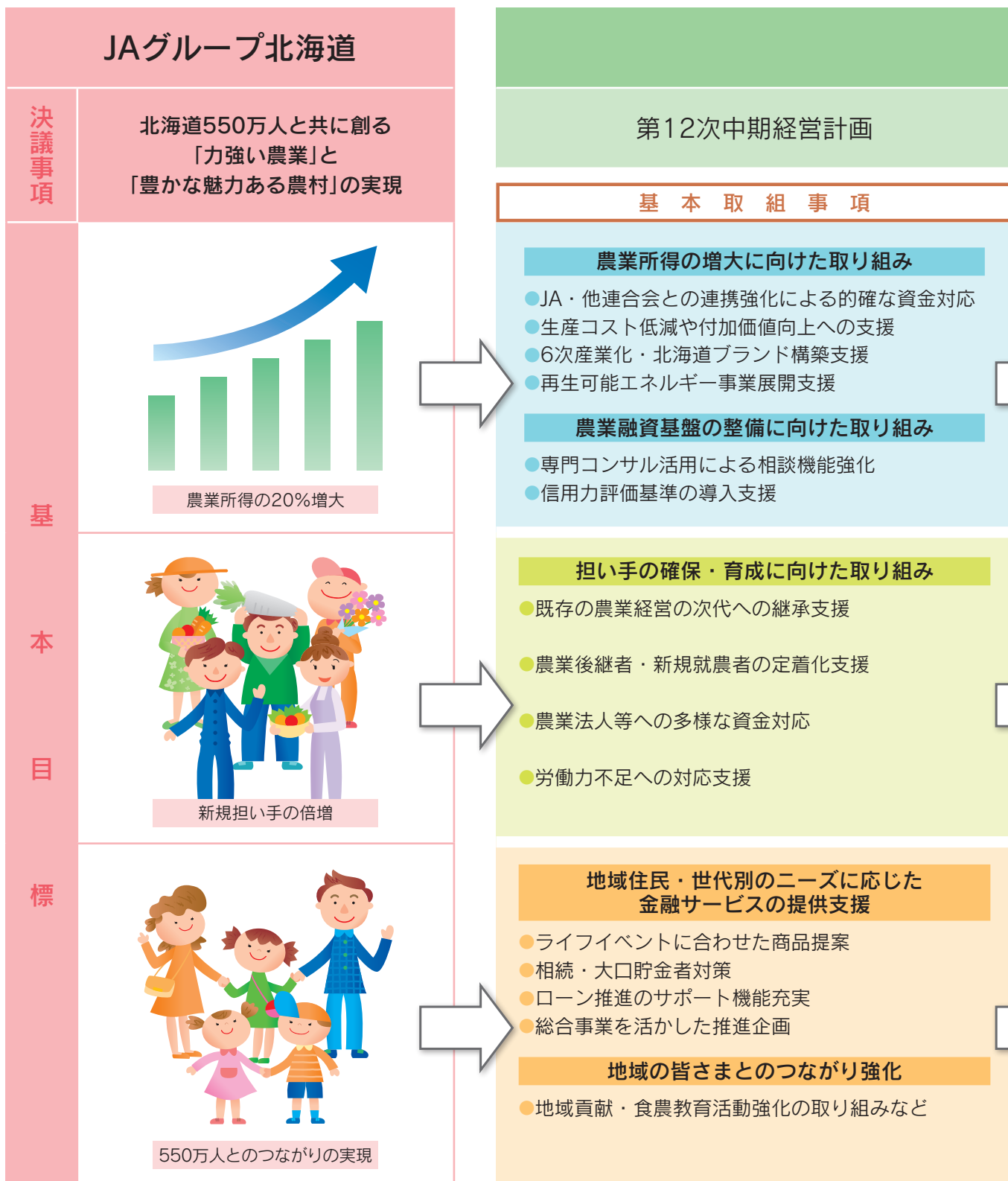


自己改革の取り組み

農業を取り巻く環境が厳しさを増すなか、政府は、平成26年5月の規制改革会議・農業ワーキンググループによる「農業改革に関する意見」の発表を皮切りに、農協法の改正や農業競争力強化支援法の成立など、農協改革への取り組みを進めています。

このような状況下、JAグループ北海道では、平成27年のJA北海道大会において、“北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」”の実現に向けて、グループ間で連携し、様々な自己改革の取り組みを進め



ていくことを決議しました。

当会におきましても、第12次中期経営計画「Go Forward～すべては、農業と北海道の未来のために～」における取組事項の着実な実践を通じて、JA北海道大会の決議事項の実現、そして信頼され選ばれ続けるJAバンク北海道の確立に向けて、全役職員が一丸となって取り組んでまいります。

J A 北 海 道 信 連

「Go Forward～すべては、農業と北海道の未来のために～」

具 体 的 取 組 事 項

JA・他連合会との連携強化による的確な対応

- 担い手の確保・育成に向けた支援事業（4事業）を実施。
- JAバンクから農業資金の融資を受ける農業者に対し「JAバンク北海道サポート事業」により利子助成を実施。

6次産業化・北海道ブランド構築支援

- JA等とのビジネスマッチングや商談会開催への支援を実施。
- 「JAバンク北海道サポート事業」により商談会への出店費用の助成支援を実施。

担い手への多様な資金対応

- 貸付対象者や資金使途に応じ、道内JA統一資金や北海道信連独自資金等さまざまな資金を設け、農業担い手等への金融対策強化に向けての取り組みを実施。

農業後継者・新規就農者の定着化支援

- 農業経営者向け経営フォーラムや農業後継者・新規就農者向けセミナーの開催。



ニーズに応じた金融サービスの提供

- 北海道産農畜産物を景品とした、JAバンク北海道ならではのキャンペーンの展開。



- 「終活」ニーズの高まりに応える「エンディングノートセミナー」の開催。



食農教育活動強化

- 親子向けの「収穫・料理教室」の開催。



- 全道の小学校へ、食農教育用の補助教材本を贈呈。



「力強い農業」の実現への取り組み

～「農業所得20%増大」と「新規担い手倍増の実現」～

JAバンク北海道は、農業メインバンクとして多様なニーズに応じていくとともに、「農業所得の20%増大」と「新規担い手の倍増」の実現に向けて取り組んでおります。

農業所得の増大に向けた取り組み

農業所得の増大に向け、ニーズに応じた適切な資金融資や生産コスト低減等への金融面からの支援に取り組んでおります。

JAバンク北海道の多様な農業資金

対象者や資金使途に応じ、さまざまな資金を設けています。道内JA統一資金のほか、北海道信連独自資金も設けており、JAバンク北海道が一体となった農業担い手等への金融対策強化に取り組んでおります。

【道内JA統一資金】

(単位：百万円)

資金名	資金の使いみちなど	残 高
JAフルスベックローン	農機具や格納庫など、比較的小口の設備資金	61,036
JA農業経営緊急支援資金	飼料費などの生産資材の高騰あるいは災害などにより緊急に必要となる中・長期運転資金	8,475
JA農業経営サポートローン	「経営所得安定対策」に係る交付金等入金までの間に必要となる運転資金	137
JA農業経営ステップアップローン	農業経営に必要な設備資金や中・長期運転資金	17,007
JA営農応援ローン	農業経営に必要な短期運転資金	780
JA新規就農応援資金	新規就農者の農業経営にかかる設備・運転資金	129
JA再生可能エネルギー施設等資金	再生可能エネルギー利用の取組みを支援するための発電・蓄電設備取得資金	343
JA農業後継者応援資金	既往農業負債の借換並びに借換に必要な費用	1,419
JA中核農業者応援資金		
JA担い手経営対策資金	既往農業負債の借換並びに借換に必要な費用	61
JA畜産等経営資金	繁殖牛導入等に必要な長期運転資金 初生牛（素牛）の育成・肥育に必要な運転資金等	169

【北海道信連独自資金（農家組合員向け）】

(単位：百万円)

資金名	資金の使いみちなど	残 高
農業経営ステップアップ資金	農地・施設・機械の取得等、農業経営改善に要する資金	4,581
信連 新規就農者資金	新規就農者が、農業経営を行っていく際に必要となる資金（営農資金・住宅資金）	235
信連 農業後継者応援資金	農業経営の安定化・高度化に資するための既往農業負債の借換並びに借換に必要な費用	1,447
信連 中核農業者応援資金		
信連 農業法人経営応援資金	農業法人が、農業経営を行っていく際に必要となる資金（運転資金・機械・設備資金）	1,292
信連 担い手経営対策資金	返済負担軽減のための既往負債の借換並びに経営改善に必要な設備更新等の新規投資	90
信連 畜産等経営資金	繁殖牛導入等に必要な長期運転資金 初生牛（素牛）の育成・肥育に必要な運転資金等	664

【北海道信連独自資金（総合JA向け）】

（単位：百万円）

資金名	資金の使いみちなど	残 高
農業経営緊急支援資金	飼料費などの生産資材の高騰あるいは災害などにより、緊急に必要となる運転資金について、JAが農業者の皆さまにご融資しようとする場合に、その原資をJAに融通する資金	5,504
共同利用施設等設備資金	組合員が利用する共同利用施設等をJAが建設するための設備資金	32,277

当会では独自資金の他に、制度資金、受託資金も取り扱っております。

【制度資金取扱い状況】

（単位：百万円）

資金名	残 高
農業近代化資金	2,634

【受託資金取扱い状況】

（単位：百万円）

資金名	資金の使いみちなど	残 高
日本政策金融公庫 （農林水産事業）	生産力の維持増進・食料の安定供給の確保に必要な資金をお取り扱いしております。	215,168
日本政策金融公庫 （国民生活事業）	教育を受けるために必要な資金をお取り扱いしております。	518
住宅金融支援機構	災害関連融資等政策的に重要なものを除いて、原則として新規のお取り扱いはありません。	15,943

JAバンク北海道サポート事業の実施について

当会は、北海道農業や農業担い手を支援するため、平成26年度より「一般社団法人JAバンク北海道サポート基金」を設立し、新たに『JAバンク北海道サポート事業』を実施しております。

この事業は、道内のJAバンクから農業資金および住宅ローンの融資を受ける農業者・組合員に対し利子の助成を行うことにより借入負担の軽減を図り、その経営をバックアップするものです。さらに、農業担い手ニーズの調査・研究や環境に配慮した地域社会の実現に繋がる事業・地域貢献活動等、幅広く北海道農業をサポートする事業に取り組んでおります。

平成29年度の農業資金に対する利子助成については、助成対象資金の新規貸付実行額が73億円、助成額は1億3,200万円となりました。

「力強い農業」の実現への取り組み

～「農業所得20%増大」と「新規担い手倍増」の実現～

担い手の確保・育成に向けた取り組み

「JAグループ北海道 担い手確保・育成支援事業」による生産コストの低減や親元就農・新規就農への支援に取り組んでおります。また、農業者向けセミナー・フォーラムの開催を通じた知識・技術面からの支援により、農業法人・農業者との関係強化を目指してまいります。

JAグループ北海道 担い手確保・育成支援事業の実施

「JAグループ北海道 担い手確保・育成支援事業」としてJAグループ北海道全体で連携して下記の4つの事業に取り組んでおります。

①農家後継者親元就農支援

後継者が就農した経営体および地域が実施する支援に対して、一部を助成する事業。

②農家・農村・農業体験支援

新規参入希望者と受け入れ農家等との「マッチング」や、学生等を農業の現場に呼び込み、農業への理解を深めてもらう「農業インターンシップ」の取り組みにかかる経費の一部を助成する事業。

③ICT導入応援事業

GPSガイダンス装置・自動操舵装置を導入する者に対して、導入費用の一部を助成する事業。

④農業経営コンサルタント事業

担い手農業者の税務、労務に関する相談に専門コンサルタント（税理士、社会保険労務士）を現地に派遣し対面で相談対応を実施する事業。

【平成29年度JAグループ北海道での助成実績】

（単位：百万円）

事業名	件数	助成額
農家後継者親元就農支援	413	186
農家・農村・農業体験支援	23	14
ICT導入支援	273	55
農業経営コンサルタント	15	1.3

農業法人・農業者向けフォーラム等の開催

フォーラムは、農業法人・農業者への支援に向けた取り組みの一環として、JAバンク北海道が主催し、JAグループ北海道が一体となって開催しているものです。

農業法人経営者や個人農業者を対象に、農業経営を考える上で一助となるような知識・技術面からの支援を目的に、11月に札幌でフォーラムを開催いたしました。また、より実務的な経営課題をテーマに全道6地区にて、セミナーも開催いたしました。

今後もフォーラム等の開催を通じ、農業法人・農業者の方々とJAグループとの、より一層の関係強化を目指してまいります。

〈フォーラム開催内容〉

「JAグループ北海道 農業経営フォーラム」

平成29年11月14日（火） 於：札幌ビューホテル 大通公園

参加者 277名（うち農業法人経営者・個人農業者 104名）

①演 題：「創業からこれまでのあゆみ」

講 師：(株)もち米の里ふうれん特産館 代表取締役 堀江 英一 氏

②演 題：「農業経営における“失敗学”」一知をもってボカを制す」

講 師：NPO法人失敗学会 副会長 飯野 謙次 氏

〈セミナー開催内容〉

平成30年1月～2月にかけて全道6地区（札幌・岩見沢・旭川・帯広・北見・釧路）にて、「人材育成・雇用・労務・税務」といった農業法人の経営課題や女性活躍推進の意義をテーマとして、税理士をはじめ、経営コンサルタント、地元農業法人経営者や農林水産省職員等を講師に招きセミナーを開催いたしました。（参加者 6地区合計411名 うち農業法人経営者・個人農業者 199名）



〈農業経営フォーラムの様子〉



〈農業法人セミナーの様子〉

農業融資基盤の整備に向けた取り組み

JAの融資体制強化への取り組み

JAバンク北海道では、農業者の経営状況に応じた融資体制強化のため、融資対応の一層の迅速化と高度化に取り組んでおります。

JAバンク北海道農業融資専門委員会・地区戦略会議の取り組み

JAバンク北海道では「JAバンク北海道農業融資専門委員会」や各地区戦略会議にて、農業資金の企画や戦略的課題への取り組みを協議しております。

専門委員は地域事情に精通し専門的知識を有するJA実務者等により構成し、施策検討等を行っております。

また、各地区に設置された戦略会議（全体会議・農業融資部会）では、JAバンク担い手金融リーダー（※）を中心に地区の実情にあわせた協議を行っております。

なお、JAバンク北海道では、職員の実務処理能力・融資渉外能力の向上および農業融資に関する知識の習得を図るため、「JAバンク農業金融プランナー」資格制度の取得に取り組んでおり、現在、710名が資格を取得しております。

※JAバンク担い手金融リーダー

農業金融実務の専門家として設置を進めてきたもので、現在、262名が道内のJAで活躍しております。



〈JAバンク北海道農業融資専門委員会の様子〉

「豊かな魅力ある農村」の実現への取り組み ～北海道550万人と「つながり」を実現～

地域の皆さまとのつながり強化への取り組み

北海道JAバンク食農教育応援事業の展開

JAバンク北海道では、JAバンクが行う社会貢献活動として、平成20年度から「北海道JAバンク食農教育応援事業」を展開しております。

この事業は、JAが行う食農・環境・金融経済の教育活動をサポートするもので、全道小学校等に対する補助教材本の贈呈や、小中学生などを対象とした農業体験学習等にかかる費用の助成を行っております。

全道の小学校に補助教材本を贈呈

小学校の授業等で活用されるよう、補助教材本「農業とわたしたちの暮らし」を作成し、北海道教育委員会・各市町村教育委員会等のご協力のもと、平成29年度は全道1,086校の小学校や特別支援学校に、最寄のJAより贈呈しております。

JAバンクは、補助教材本贈呈事業を通じて、教育現場での食農教育を応援しています。



〈北海道教育委員会教育長への贈呈〉



〈JA函館市亀田より函館市立中の沢小学校へ贈呈〉

JAグループが行う食農教育活動への助成

全道の各JAやJAの青年・女性部組織は、地元の子どもたちを対象とした食や農業などの教育活動に取り組んでおります。平成29年度は53のJAや組織によって農業体験学習や学校給食食材提供、料理教室など、100の活動が各地区で行われました。

JAバンクでは、こうした活動にかかる助成事業を通じて社会貢献活動に寄与しており、引き続き積極的な食農教育応援事業の展開に取り組んでまいります。



〈JA当麻・田植え体験学習〉

旬食カレッジin旭川「収穫・料理教室」の開催

JAバンク北海道は、平成29年8月に旭川市内の永山公民館において、＝学ぶ・作る・食べる＝旬食カレッジin旭川「収穫・料理教室」を開催いたしました。旬食カレッジの開催は、平成28年の札幌市に続き2回目となります。

今回は、JAあさひかわとの共催で、JAあさひかわ女性部の協力を受け、12組27名の親子が参加し、市内の畑で「大根掘りの収穫」を体験し、収穫した旬の野菜を使った「料理教室・試食」と「食の講演」を行いました。

子どもたちは、力を合わせて野菜を収穫し、慣れない手つきで新鮮な道産夏野菜を美味しく調理し、試食の後には料理教室で使った食材等の特徴や調理方法、野菜の花の特徴などを学びました。



〈収穫体験〉



〈料理教室〉



〈食の講演〉

JAグループ北海道サクスマッチで「食農教育活動」を実施

JAグループ北海道は、9月に札幌ドームにおいて、オフィシャルパートナーとなっている「北海道コンサドーレ札幌」のホームゲーム（対アルビレックス新潟戦）を、『JAグループ北海道サクスマッチ』として開催いたしました。

そのなかで当会は、「JAバンク北海道 クイズに答えて農業を知ろう!」と題して、中学生以下の子どもたちを対象に食農教育活動を展開いたしました。

今回のブースでは「日本の食糧自給率」や「北海道は日本の食糧供給基地」などの他、「JAバンクの役割や貯金残高100兆円達成」、「JAバンク北海道の食農教育応援事業」など、北海道の農業とJAやJAバンクに関する内容を7枚のパネルで展示し、そのパネルの内容をヒントにして、子どもたちにクイズに挑戦してもらいました。



〈農業・JAなどを知ってもらいました〉

「豊かな魅力ある農村」の実現への取り組み ～北海道550万人と「つながり」を実現～

北海道の農業応援トークショーの実施

平成29年6月に、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）において、「北海道の農業応援トークショー」およびJAバンクのPRイベントを実施しました。

トークショーは、HBCの石崎アナウンサー・森アナウンサー、若手女性農業者集団「Links」の内山佳奈さんを招待し、内山さんが栽培しているアスパラの調理方法など、農業に関する様々な話題についてお話をいただきました。

会場では他にも、JAサツラクによるローン相談・JAバンクのマスコットキャラクター「ちょリス」グッズがあたるクイズ等を実施し、多くの方にお越しいただきました。



〈トークショーを行う（左から）石崎アナウンサー、森アナウンサー、内山さん〉

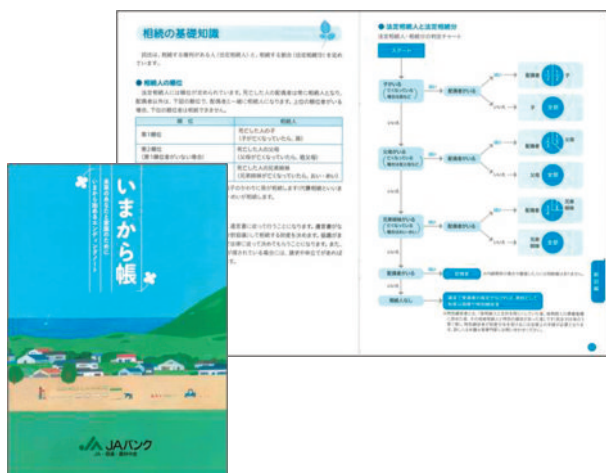
エンディングノートセミナーを初開催

平成29年10月に、高齢者の「終活」ニーズの高まりを受け、札幌市において「エンディングノートセミナー」を開催いたしました。

エンディングノートとは、将来自分に万一のことがあったときに備えて、あらかじめ家族やまわりの人に自分自身の“思い”を書き残しておくものであり、これまでの人生を振り返り、これからの生き方を考えていく手助けとなるように、JAバンクではオリジナルのエンディングノート「いまから帳」をご用意しております。

セミナーでは、参加者の皆さまに、「いまから帳」の書き方や相続に関する手続・税制の仕組み等について学んでいただきました。

参加者からは「遺族としての手続き等が複雑なことに驚いた」、「大変参考になった」など好評いただきました。



〈JAバンク版エンディングノート「いまから帳」〉



〈セミナーの様子〉

サポーター550万人づくりに向けたJAバンク北海道のPR

イベントへの参加

JAバンク北海道では、サポーター550万人づくりに向けて、道内で開催される様々なイベントに参加しております。

平成29年度は、帯広で開催された子育て中のママたちを応援するイベント「ママとコ とかち」や食と農をテーマに札幌市で開催されたイベント「アグリ・フードプロジェクト」等へ参加し、JAバンク北海道や各種キャンペーン等のPRを行いました。

各イベントにはJAバンクのマスコットキャラクター「ちょリス」も登場し、記念写真の撮影などを行い、女性や子どもを中心に人気を集めていました。



〈女性や子どもに大人気のちょリス〉

落語イベントへの協賛

平成30年3月に、JAバンク北海道として初めて、若手落語家ユニット「成金」による落語イベントへ協賛を行いました。

「JAバンク北海道プレゼンツ 大札幌成金」と銘打った本イベントでは、落語ファンをはじめとする1,200名以上の方にご来場いただき、メディアにも取り上げられるなど好評なイベントとなりました。

地域住民・世代別のニーズに応じた金融サービスの提供

各種キャンペーン

組合員・地域の皆さま向けにJAバンクならではの様々なキャンペーンを展開しております。

ドドーン貯キャンペーン

平成26年から実施しているドドーン貯キャンペーンは、毎年ご好評いただいております。本年度で4年目の実施となりました。

今年も、定期貯金・定期積金をご契約いただいた方の中から抽選で、道内農畜産物や道内JA特産品をプレゼントいたしました。



「豊かな魅力ある農村」の実現への取り組み ～北海道550万人と「つながり」を実現～

スプリングキャンペーン2017

新たに給与振込をJAにご指定いただいた方にもれなくQUOカードを、定期貯金・定期積金をご契約いただいた方の中から抽選で、コンサドーレレプリカユニフォームや「ゆめぴりか」等をプレゼントいたしました。

各種年金キャンペーン

JAバンクで年金をお受取りの方等を対象に、「年金感謝ウィーク」、「年金お受取り・ご紹介キャンペーン」を実施しました。